

10月13日(金)第4回教養アップ講座が開催されました。

今回は、東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻の大学院生中田峻太郎氏をお招きし「失われた時を求めて—学問的生き方のススメー」と題して実施しました。参加希望 152 名、急遽先生のご厚意により2部制で実施しました。現代フランス思想のはじまりから「見ることと読むこと」をキーワードとして、「分からないことを分かるふりをすることは暴力である」「分からないことをそれでもなお分かろうとすること」「訂正したことをさらに訂正しながら読み続けること」と語りかけられ、深い思考の世界へと導かれました。最後のセッションでは村上春樹のデビュー作「風の歌を聴け」に隠された「読むこと」によってのみ明らかにされる著者の意図が語られ、前半の多くの伏線を回収しながら、講演全体に隠された中田先生のメッセージを理解することができました。どのようにして生きていくかという自身の内面への深い問いをもった感想も多くみられ、大変知的で有意義な時間を過ごすことができました。

